

### 第三節 將來の教育

翻つて清廷の、新疆平定後の對新疆政策を按ずるに既往數次の回亂に鑑み、各汗王を慰撫して、高位高爵を興ふると同時に、其の宗教及教育等に對しては、只大體を監督するのみ。其の内部の權限に至つては、敢て干涉を加へず。彼等の爲すが儘に放委し、以て自然に放恣、怠惰、柔弱、暗昧に陥らしむるの現況に在りとす。

如今天山南北路の間を通觀するに、往昔世界を振動したる蒙古族は今如何。彼等は只管喇嘛教に心酔し、念佛の外復た何事をも解せず。而も淫靡柔弱の境に墮落して、成吉思汗當時の勇氣あること無し。

且つ鐵蹄歐亞を蹂躪したる哈薩克は、今や暗弱にして、只遊牧と乘馬と馬鞍製作の外、何等知る所なく、其の他纏頭、漢回亦智識低劣にして均しく世界の趨勢を知らず。

清國若し新疆の各種族をして、今の現狀に放委せば、彼等は永く無智蒙昧の域を脱すること能はず。彼等をして萬世頑冥の牧夫たらしめんことは望むべく、彼等